

学生アイデアコンテスト2018 出場者に聞く

3人の力合わせ「奨励賞」受賞

東京経済大学4年 倉本 秀人くん
森 健太くん
関西大学4年 山西 一樹くん



(左から) 森くん、倉本くん、山西くん

「アイデアコンテスト」に参加したきっかけは、倉本君のチームは、昨年のRIS(注)で仲良くなったメンバーで、9月の前半から柳瀬先生(東京理科大学教授)のゼミで参加した。森君が大阪にきてくれたので、発表する保険商品のベースが固まり、それぞれが各パートを研究し始めた。森君と大阪で一緒にいたので、研究の進捗状況の報告や相談については、スカイプをよく使った。チームの自然災害に対するパラメトリック保険については、3人が

アイデアを出し合う中で、山西君が提案した風評被害の保険にしようというところになった。ちょうど、北海道の震災や関西国際空港の台風による被災があったばかりだったので、タイムリーなテーマだった。

——自分たちのプレゼンを振り返ると、森君はしっかりと組み立てられたと思う。練習不足や緊張感からか、実力を100%は発揮できなかったと思う。倉本君、資料の作成に時

間を取られて、プレゼンに時間を割けなかったのが反省点である。そのうちした中で、3人で力を合わせて「奨励賞」を受賞できたのは良かった。

——今回の韓国訪問で学んだ点は、山西君は保険会社への就職が内定している。参加した韓国の学生も保険会社に就職する人が多かった。意識が非常に高く、皆すごく勉強しているのが分かった。海外にも優秀な人が多いことが分かった。

森君は、グローバル化が進んで、外資系企業だけでなく日本企業も海外で取引するのが当たり前になっている。その際、共通言語の英語を使ってプレゼンテーションする機会も増えると思う。日本では英語でプレゼンする機会ほとんどない。そうした中、韓国人や中国人を相手に英語のプレゼンテーションで競い合う経験ができるようになったイベントは貴重だと思ふ。

(注) RIS (Risk and Insurance and Seminars) 全国学生保険学ゼミナール。全国の大学における、リスクマネジメント・保険、金融・ファイナンス関連のゼミナールを中心としたネットワークでの研究交流を行う組織。各地域(関東・関西・九州)で春と秋に行う地区報告会と年末の全国大会の開催、年1回の機関紙(論文集)の発行が主な活動。

——コンテストに参加したきっかけは、倉本君のチームは、昨年のRIS(注)で仲良くなったメンバーで、9月の前半から柳瀬先生(東京理科大学教授)のゼミで参加した。森君が大阪にきてくれたので、発表する保険商品のベースが固まり、それぞれが各パートを研究し始めた。森君と大阪で一緒にいたので、研究の進捗状況の報告や相談については、スカイプをよく使った。チームの自然災害に対するパラメトリック保険については、3人が

アイデアを出し合う中で、山西君が提案した風評被害の保険にしようというところになった。ちょうど、北海道の震災や関西国際空港の台風による被災があったばかりだったので、タイムリーなテーマだった。

——自分たちのプレゼンを振り返ると、森君はしっかりと組み立てられたと思う。練習不足や緊張感からか、実力を100%は発揮できなかったと思う。倉本君、資料の作成に時

間を取られて、プレゼンに時間を割けなかったのが反省点である。そのうちした中で、3人で力を合わせて「奨励賞」を受賞できたのは良かった。

——今回の韓国訪問で学んだ点は、山西君は保険会社への就職が内定している。参加した韓国の学生も保険会社に就職する人が多かった。意識が非常に高く、皆すごく勉強しているのが分かった。海外にも優秀な人が多いことが分かった。

森君は、グローバル化が進んで、外資系企業だけでなく日本企業も海外で取引するのが当たり前になっている。その際、共通言語の英語を使ってプレゼンテーションする機会も増えると思う。日本では英語でプレゼンする機会ほとんどない。そうした中、韓国人や中国人を相手に英語のプレゼンテーションで競い合う経験ができるようになったイベントは貴重だと思ふ。

(注) RIS (Risk and Insurance and Seminars) 全国学生保険学ゼミナール。全国の大学における、リスクマネジメント・保険、金融・ファイナンス関連のゼミナールを中心としたネットワークでの研究交流を行う組織。各地域(関東・関西・九州)で春と秋に行う地区報告会と年末の全国大会の開催、年1回の機関紙(論文集)の発行が主な活動。

意識の高さを感じた韓国の学生

韓国保険新聞・保険毎日新聞・中国保険報

日韓11チームがユニーク保険で競い合う

韓国・ソウルで「学生アイデアコンテスト2018」開催

韓国保険新聞、保険毎日新聞、中国保険報の3社は11月9日、韓国・ソウルの生命保険教育文化センターで「学生アイデアコンテスト2018」本選大会を開催した。保険産業を発展させるためのユニークな保険商品をテーマに、日中韓3国の大学生個人またはチームがアイデアを競い合うイベントで、今年で2回目。予選を勝ち抜いた韓国10チームと日本1チームが公開プレゼンテーションを行った。

後、前半に6チーム、休憩を含んだ後半に5チームが15分の制限時間で発表した。各プレゼン後には、審査員との質疑応答も行った。



真剣な雰囲気の中での会場



優勝したチーム「宝探し」

イベントの冒頭、保険毎日新聞の森川正晴取締役編集部長があいさつし、「保険制度を学ぶ韓国、中国、日本の大学生が一堂に会し、保険事業についてのアイデアを発表し合うイベントの一翼を担うことができ、柳瀬典由教授が登壇し、本日のコンテストでどのようなアイデアが出てくるのか、メディアとしての概要を紹介したい」と述べた。また、全審査員が紹介された

などを補償するパラメトリック保険について発表。はつきりとした英語によるスピーチで、近年に日本で発生する自然災害の頻度や経済的損失、国内損保業界が提供する地震に対するカバー、新たに考案した保険商品の概要や提供するべきゲーム、現代海上の人

失、国内損保業界が提供する地震に対するカバー、新たに考案した保険商品の概要や提供するべきゲーム、現代海上の人

発表した。発表後には、審査員から商品アイデアのユニークな点などについて質問を受けた。

全プレゼン終了後、プレゼンが当たると見込みゲーム、現代海上の人

を食べても本当においしかったのは印象的だった。

——次にコンテストに参加する学生にアドバイスがあれば、森君は、グローバル化が進んで、外資系企業だけでなく日本企業も海外で取引するのが当たり前になっている。その際、共通言語の英語を使ってプレゼンテーションする機会も増えると思う。日本では英語でプレゼンする機会ほとんどない。そうした中、韓国人や中国人を相手に英語のプレゼンテーションで競い合う経験ができるようになったイベントは貴重だと思ふ。

大賞は少額短期保険を参考にした「ナノ保険」

——今回の韓国訪問で学んだ点は、山西君は保険会社への就職が内定している。参加した韓国の学生も保険会社に就職する人が多かった。意識が非常に高く、皆すごく勉強しているのが分かった。海外にも優秀な人が多いことが分かった。

(注) RIS (Risk and Insurance and Seminars) 全国学生保険学ゼミナール。全国の大学における、リスクマネジメント・保険、金融・ファイナンス関連のゼミナールを中心としたネットワークでの研究交流を行う組織。各地域(関東・関西・九州)で春と秋に行う地区報告会と年末の全国大会の開催、年1回の機関紙(論文集)の発行が主な活動。

事部門長による特別講演に続いて授賞式が行われた。講評でリュウ・クン・オ審査員長は、「今回、皆さんが応募されたものはどれも大変に優秀なもので、審査する側としても大いにプレッシャーを感じた。皆さんの提案は、自分としてもとても勉強になったし、新しいアイデアを聞かせていただいたことをうれしく思っている。このコンテストで重視しているのは完璧な提案ではなく、学生ならではの新しい発想だが、今回の優秀なアイデアを保険会社が実際に商品化することを期待したい」と述べた。また、ソル・イン・ベ金融監督院副院長補は、「貴重なアイデアを出していた日本の「THREERA」が選ばれた。賞金は、大賞が賞金300万ウォン(1ウォン約0.1円で約30万円)、優秀賞が200万ウォン(同約20万円)、奨励賞が100万ウォン(同約10万円)だった。優勝したチーム「宝探し」の学生は、「4人が各パートに分かれて発表したけど、それぞれが100%以上に力を出したので大賞に選ばれたのだと思う」と感想を述べた。

最後に参加者全員で記念撮影した後、会場を移して晩餐会を実施。学生たちがお互いの健闘をたたえながら、自分たちのプレゼンについて意見交換する姿がこちらで見られた。

「ナノ保険」は、少額短期保険を参考にした。大賞は、少額短期保険を参考にした「ナノ保険」のプレゼンテーションを行った韓国の学生4人組のチーム「宝探し」が受賞。優秀賞にIoTハッキング損害保険について発表したチーム「IINU」と、定額サービスについての保険アイデアを披露したチーム「ピンテクロス」、奨励賞に中小企業のためのサイバー保険についてプレゼンしたチーム「SCAN」と日本の「THREERA」が選ばれた。